



子どもたちは、学力調査をはじめこれからいろいろなテストや調査を受けることになります。
 「問題にどう取り組んだらよいかわからない」「難しい問題に出会ったときにどう考えたらよいだろうか」といった子どもの不安を解消する“6つのカギ”を考えてみました。
 子どもたちが本来もつ力を出し切ることができるための**指導の参考**としてお使いください。

問題を解くカギ

～ 子ども達一人一人に「やってみよう」「できるよ」という「意欲」と「自信」を ～



必要に応じて、
ご活用ください。

子ども達一人一人が最大限の力を発揮できる6つのカギ



☆カギ① 「問い」からも読んでみよう！

「問い」を先に把握して、それを見付ける・探す・考えるために「資料」などを読むことも1つの方法です。

(例えば) H24 小6 国語

B問3【月刊『未来へはばたく☆小学生』の一部】を読んで、あとの問いに答えましょう。

- ◆「読んで」から「問い」に答えていたら文の多さに時間切れになることも。
- ◆「問い」から読むと、目的を持って資料を読むことができます。

☆カギ② 選択問題は「選ぶ」方法と「消す」方法で！

選択問題は「選ぶ」方法と、「消去」から見付ける方法とがあります。

- ◆これだ！と分かるときは「選ぶ」方法。
- ◆はっきり、違うと分かるものを「消し」選択肢を減らすことで正解を見付ける方法。

☆カギ③ 問題文の「問いかけ」や「条件」にしるしを！

問題文の問いかけや、条件にマークをつけ、目立つようにする方法もあります。

- ◆線を引く、○で囲むなどで目立つようにすることで、見落としを防げる。

☆カギ④ 条件にあっているか見直しを！

問われている条件は必ずクリアするようにします。

- ◆カギ③のマークをつけたところが、しっかりできているか見直す。

「記号で答える」→ 言葉で答えていない？

「○字で答える」→ 字数はあっている？

「○○という言葉を使って答える」→ 違う言葉を使っていない？○○が入っている？

「作文のマス目」→ 書き出しに注意。1マス下げて書いている？

「計算」→ 時間があれば、再度計算。計算は合っている？ など

☆カギ⑤ できる問題を先にしよう！

自分のできる問題はきっちりとやって、自分の力を発揮できるように最後まで取り組みます。

- ◆難しい問題や悩む問題に出合ったら、時間をかけず、次の問題に進む。
- ◆とにかく最後の問題までいく。
- ◆時間があれば、できなかった問題にもう一度チャレンジする。あらたな発見とひらめきで解くことができることも。

☆カギ⑥ 迷って自信がなくても記入しよう！

間違えているかも？と思っても、書いてみます。

- ◆記号で答える場合、迷っても近いと思うものを書いてみる。
- ◆文章で答える場合、難しいと感じても、教材文の言葉を使うなどできるところまで書いてみる。
- ◆子ども達には、簡単にあきらめずチャレンジする意欲と粘り強さが身につく。

「教科ならではの力ギ」



【外国語科】

○先に聞き取り問題に目を通す

- ・聞き取り問題は、先に問題用紙に書かれている設問や選択肢の内容を読んでおき、「目的意識をもって英語を聞く」
（「聞きながら考える」ではなく、『考えながら聞く』に！）

○英語で自分の考えなどを表現する場合は、構成やつながりの語を意識する（英語に限らないが）

- ・まず結論を記し、そう考えるに至った根拠や理由、比較、例示等の内容を加えていくことで説得力のある内容に近づけることができる
- ・文と文をつなぐ語を用いて、つながりをなめらかにする
（例：because, so, and, but, for example）

【社会科】

○資料の読み取り方の達人に！

グラフ

- ①表題（タイトル）を読む（何の何を表しているのかをつかむ）
- ②たてとよこは何をあらわしているのかをつかむ
- ③全体は、どのように変化しているかをつかむ
（大きく特徴をつかむ）
- ④変化の大きいところ、小さいところをつかむ
- ⑤2つグラフがあるときは、その変化を比べ、そこに関連性がないか考える
（例）



- ・Aのグラフは全体的に増えている………Bのグラフも増えている
（関連性）Aが増えると、Bも増える → そこにどんな関連があるか意味を考える
- ・Aのグラフは全体的に増えている………Bのグラフは減ってきている
（関連性）Aが増えると、Bは減る →→ そこにどんな関連があるか意味を考える

主題図（地図など）

- ①地図のタイトルを読む
- ②記号など地図内にある説明を読む
- ③全体にいえることを読み取る

